AI で作る ウェブアプリ②

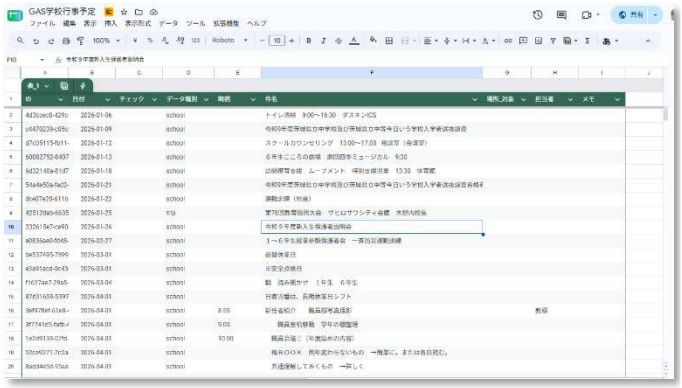
- ✓ Gemini や ChatGPT でコードを作成
- ✓ スプレッドシートを使ったデータ管理
- ✓ Google App Script を使う
- ✓ HTML ファイルとの連携

ここで覚えること

●AI で設計・生成	データベース連携を前提とした指示 ・HTML フォームから入力値を取得 ・GAS を介してスプレッドシートへ追記 ・過去のデータを自動読み込み表示
●データ入出力設計	読み込み・書き出し処理の定義 例：学習振り返りカードの場合 授業の終わりにデータを送信→過去のデータを確認 教師側は、送信されたデータを確認（UI をグラフィカルに作成するなど）
●GAS 構築とデプロイ	コード追加と WEB アプリ公開 ・コード.gs → 作成された GAS コードを入力 ・index.html → ユーザー側の操作画面（UI）用の HTML を追加 ※ウェブアプリ URL やスプレッドシートの ID が必要となる
●サイトへの埋め込みとアプリの起動	デプロイ URL をそのまま埋め込む ・GAS で発行された「Web アプリ URL」をコピー ・Google サイト編集画面で「挿入」>「埋め込み」を開く

操作画面とメニューの見方

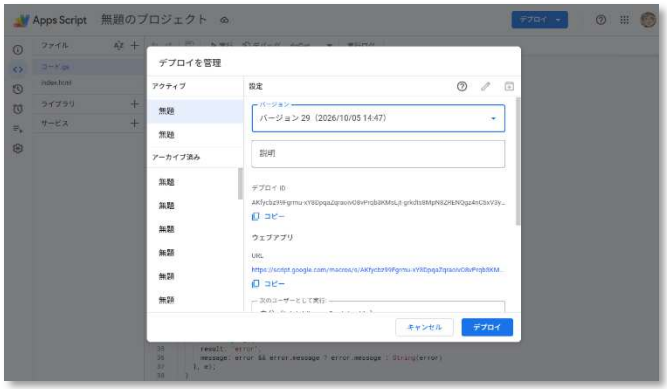
●データベース用のシート



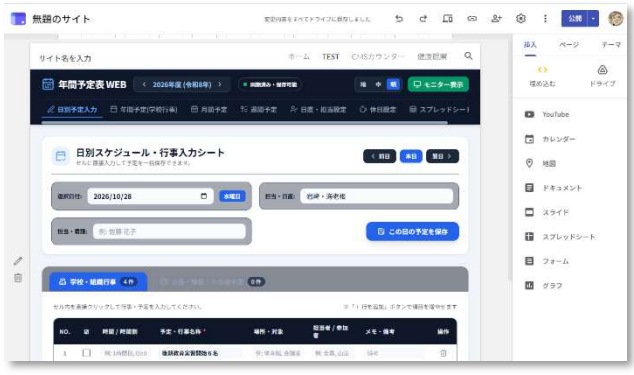
●GAS エディタ画面



●デプロイの管理画面



●Google サイトへのウェブアプリ URL の埋め込み



MEMO